

中学生のインターネット利用実態

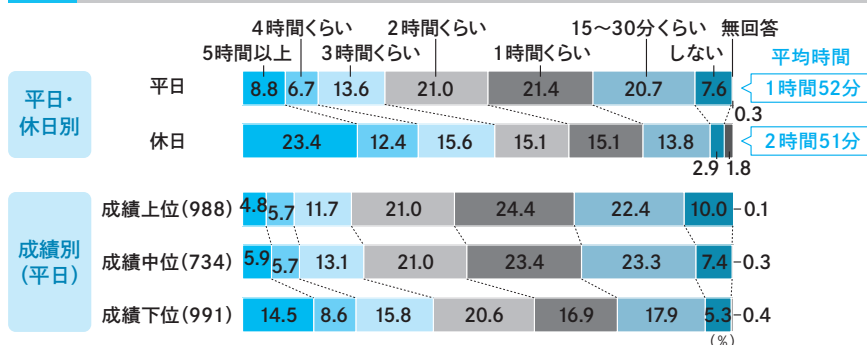
今回取り上げるデータは、中学生とインターネット。今回の調査で約87%の中学生が利用しているという「あって当たり前の存在」であるインターネットについて、中学生の利用実態をご紹介します。

1

インターネットの利用時間

成績下位層で長いインターネット利用時間

図1 インターネットやメールをする時間 [1日あたり] (平日・休日別、成績別)



注) 平均時間は、「しない」を0、「15分くらい」を0.25、「30分くらい」を0.5とし、「1時間くらい」を1、「5時間より多い」を6として算出している(無回答は除く)。

中学生は、メールやSNSの利用も含めて、インターネットをどのくらいの時間利用しているのだろうか。

アクセス時間を見ると、平均時間は、平日1時間52分、休日2時間51分。平日では、約半数が1時間以下の利用にとどまるが、休日になると長時間利用者が増え、ネットを利用する中学生の約4分の1が5時間以上利用している(図1)。

成績層別に平日の利用時間を見ると、成績中上位層に比べて成績下位層で明らかに利用時間が長い傾向が見られる。

2

インターネットの利用ルールと意識

半数は「勉強中は使わない」。情報リテラシーに課題も

図2 インターネットやメールの利用に関するルール・自制意識

Q. インターネットやメールの利用について、以下のことを意識していますか(複数回答)



では、インターネットの利用に当たって、中学生はどの程度意識してルールを決め、自己管理を行っているのだろうか。

図2を見ると、「勉強中は使わない」としているのは約半数。有料サイトを利用しない、個人情報を書き込まない、知らない人に会わない、といった危険回避に関する項目は、7割以上が意識している。一方で、情報リテラシーについて見ると(図3)、情報源の確認や情報の流

用に関する意識は十分とは言いがたい。ネットの危険性に関する指導に加えて、情報リテラシー教育を充実させることも重要だろう。

図3 情報リテラシー

Q. インターネットの情報を利用するにあたり、次のようなことがどれくらいあてはまりますか

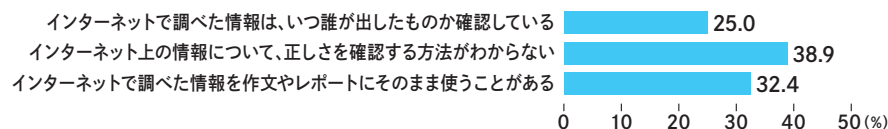


図3 注) 数値は、「とてもあてはまる」+「まああてはまる」の合計値(%)。

「中高生のICT利用実態調査 2014」

本調査は、ベネッセ教育総合研究所が、2014年2～3月に全国の中学1年生～高校2年生を対象に実施。掲載データは全て、普段のインターネットの利用有無に関する質問に対し、「使っている」「ときどき使っている」と回答した中学生2,796人（中学生の回答者全体の87.3%）を母体としている。

◎詳細は下記ウェブサイトをご参照ください。

<http://berd.benesse.jp/shotouchutou/research/>

ベネッセ教育総合研究所
研究員

吉本真代

よしもと・まよ



アセスメント研究や大学における高大連携活動の企画・運営等に携わった後、近年は中等・高等教育領域を中心に、子ども・学生、教員（学校）を対象とした調査研究に従事。

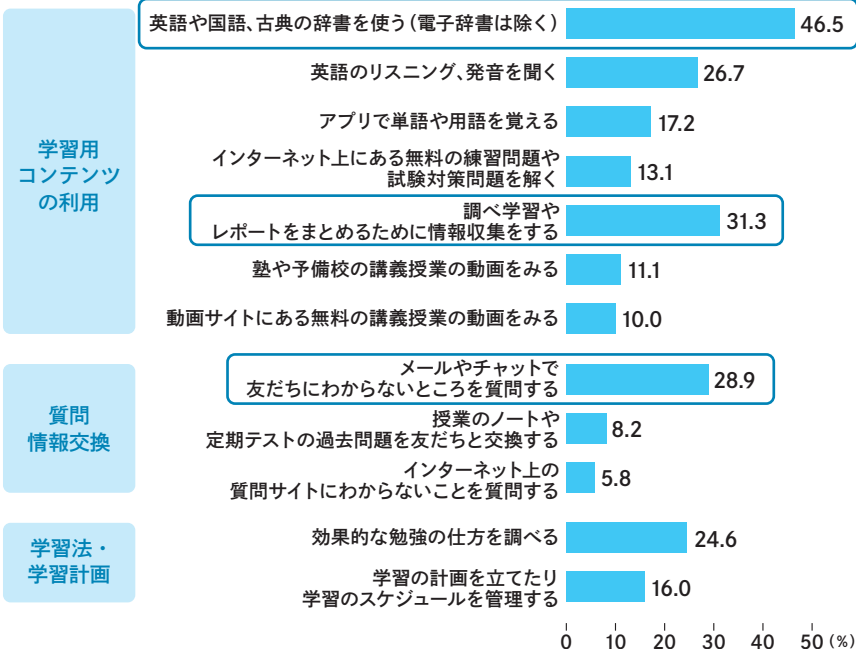
3

インターネットの学習への影響

学習でのネット利用は辞書利用と情報収集が中心

図4 学習時のインターネットやメールの利用内容

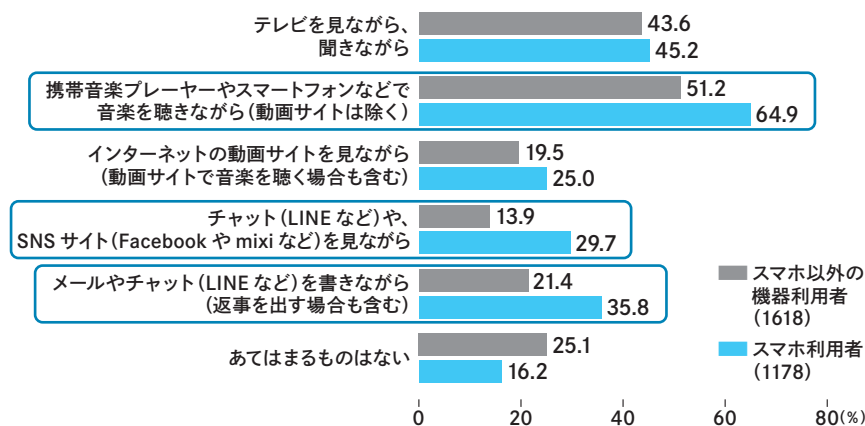
Q. 勉強する時にインターネットやメールを使って次のようなことをしますか



注) 数値は、「よくある」+「ときどきある」の合計値 (%)。

図5 学習時の「ながら行動」(スマートフォンの利用有無別)

Q. 家で、次のようなことをしながら勉強をすることがありますか。



注) 「スマホ以外の機器利用者」とは、携帯電話、PC、タブレットPC、携帯型音楽プレーヤー、ゲーム機のいずれかで、インターネットにアクセスしている人を表す。

◎3割はチャット等で友だちに質問

次に、学習でのインターネットの利用状況について尋ねた結果が図4である。

ネット上の学習用コンテンツの利用として、最も多いのが「英語や国語、古典の辞書を使う」(46.5%)、次いで「調べ学習やレポートをまとめるために情報収集をする」(31.3%)であった。これら以外は3割を切り、あまり積極的には利用されていないようだ。

また、質問や情報交換として、「メールやチャットで友だちにわからないところを質問する」は約3割が行っており、これが高校生だと5割近くに増える。今後、スマートフォンなどが一層普及すると、生徒間の学習に関する情報共有も進んでいくかもしれない。

◎スマホで増える「ながら学習」

最後に、「ながら学習」について見ていきたい。スマートフォンと他の機器利用者を比較すると、「音楽を聴きながら」や「チャットやSNSサイトを見ながら」「メールやチャットを書きながら」はスマートフォン利用者が高く、スマートフォンによって「ながら学習」が増えていることが分かる。

図4で見たように、メールやチャットで分からないところを質問している場合もあるが、質問がおしゃべりに変わったり、他の情報に気を取られたりすることも起きやすいのがSNSやスマートフォンの特徴だ。特に成績下位層で「ながら学習」が多い傾向が見られ、家庭でのルールの有無や自己管理能力の違いが学力差にもつながっていくと言えるだろう。